



# 子どもからのSOS。 その時学校は。

子どもたちは今どのような問題を抱え、学校ではどう対応しているのでしょうか。福井県教職員組合の竹野亨執行委員長に伺いました。

「いじめ」「不登校」は、  
今日も起きています

大きな社会問題となった「いじめ」は、文部科学省の指導で問題解決と防止への取り組みが行われてきました。現在は若干落ち着いていますが、いじめに起因する痛ましい事件は今も起こっており、県内でも800件余りのいじめが報告されています。\*

不登校も学年と共に多くなり、中学校からは急激に増加します。不登校は友人関係の問題や家庭の養育状況などさまざまな要因があるとされていますが、いじめも深く関連しています。

これらの原因究明は必要ですが、それだけで解決するものではありません。何より現場では、日々対応が求められているのです。

※1 2014年のいじめ認知件数  
(福井県・小中高特)



福井県教職員組合 執行委員長  
竹野 亨 さん

「いじめ」は早期発見と  
チーム対応

教師はできるだけ子どもたちと関わり、その変化を読み取ることで、いじめの早期発見に努めています。また、教師同士、さらにはスクールカウンセラーなど外部の専門家とも連携しながら、**チームで解決にあたっています**。このように多くの人間が関わることで**配りができ、特定の教師に負担が集中するのを防げるメリットもあります**。子どもたちも、外部のカウンセラーだからこそ、話しやすいこともあるのです。

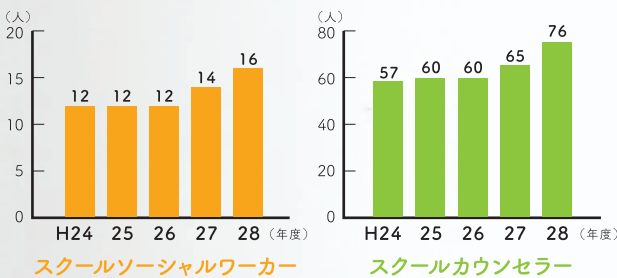
「不登校」対策は、  
環境を整えて慎重に

不登校の子どもたちが教室に戻って、学校生活を送っていただけるようにするには、慎重な対応が必要です。学校には、教室にいるのが辛くなった子や不登校からもう一息で教室に戻れそうな子のために、**カウンセリングルームや自習室を設けているところもあります**。ここにいる支援員が、子どもたち一人ひとりに気を配り、教室に戻るための後押しをしているのです。しかし**規模の小さい中学校や小学校ではその役割を保健室が兼ねている所もあり、行き届いているとは言えません**。

早急な  
人材確保が必要

社会が複雑化し、子どもたちのケアにこうしたチーム体制は必須

県内小中学校のスクールカウンセラーと  
スクールソーシャルワーカーの変遷



となってきました。カウンセラーや支援員など外部の人たちの力が、欠かせなくなっているのです。こうした専門家と関わることは、教師のスキルアップにもつながります。

また貧困など家庭に問題を抱えている場合、地域や福祉専門機関との連携が必要になってきます。この調整役となるスクールソーシャルワーカーも、さらに求められるでしょう。

福井県教職員組合では長年、県に対して支援員やカウンセラー等の増員を要望しており、今年度も引き続き請願項目に盛り込んでいます。

## いじめ・不登校は早期の対応が大切です

親御さんへ **子どもの変化を見逃さない!**

食欲や成績の低下、表情が暗い、口数が少ないなどは、いじめや不登校のサインかも。他に学校の不満や自分への否定的な発言などにも注意。普段から子どもの様子を見ることが大切です。

子どもたちへ **頼れる人を見つけよう!**

多くの大人が、あなたを支えたいと思っています。親や担任の先生に言いにくくても、他のクラスの先生やカウンセラー、支援員の方など、必ず助けてくれる人がいることを忘れないで!



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>